

# 戰時國民幼稚園

(六) 挺身の意氣

## 倉橋惣三

耳をうつ戦報、胸をさきめかす戦果、われ等はその大いなる意義と効果を思ふと共に、その一つ一つの戦報のうちに聞える、勇敢、勇邁、勇壯の響に心を躍らせる。海鷲の、若鷲の、潜航艇の、驅逐艦の、雲を突き破り、濤を突き潜りゆく勇ましいさなくして、この素晴らしい戦果を得られない。殊に、あの特殊潜航艇、あの若鷲の群、それは勇ましいといふよりも、たゞ瞳目するばかりである。何にか瞳目する。その挺身の意氣にこそ感嘆し、瞳目する。單なる決意、單なる斷行、それだけに止まらない。身を以てする、自ら挺んでゐる、その颯爽の意氣、これこそ實に、一彈鐵壁を穿ち、一發巨體を屠る力である。假りに貯ふるに千鈞の勇あり、漲ぎるに萬丈の慨あり、これこそ、挺身の意氣なくして、何んで此の電撃の勝利を擧げることが出来ようや。控ふるに百萬の軍あり、備ふるに十萬の兵車あり、これこそ、一人身を挺んで進むことが出来たら、何んで此の先機の効果を擧げることが出来よう。

挺身こそは勇の最も勇なるものである。他と共に進むのではない。況んや他におくれて立つのでなく、他に引きづられて従ふのではない。促されてゝもない。況んや命ぜられてゝはない。實に身を以てするのである。自己を以て投するのである。その意氣や、潑刺として迸るの勢である。しかも猪突にあらず、盲進にあらず、反動にあらず、發作にあらず、千慮速かに成り、一斷忽ち決し、我れそのものが箭となり彈となり、飛び出すのである。一點の躊躇が無い。一絲の逡巡が無い。一抹の狐疑が無い。無い。無い。何も無い。たゞ身を以てするの勇だけがあるのである。

大國民性は沈著であり、泰然であり、自若である。おほきかに、おうやうに、濫りに發せず、急に走らず、軽々しく激せず、容易に立たない。その最要の特性は、ひろさであり、包むにあり、敢て迫ることをしない。しかしまた、大國民は決して老國民ではない。況んや情國民ではない。それは常に若さをもつ國民である。新鮮を失はない國民である。而して、大東亞戦争のこの華々しい戦果は、この國民的若さ、新鮮さの顯現發露でないものはない。しかも、この國民的若さ、新鮮さを永遠に傳へて、挺身突進の意氣を断えず洋溢せしめる爲に、幼児教育の重要な責任のあることを忘れてはならぬ。眞の教育は國民をたえず若くする。その教育は、最も新鮮なる幼児の生活から始められねばならぬ。